



AA日本ニュースレター

NPO法人 AA日本ゼネラルサービスオフィス

No. 121

第12回全国評議会の開催に向けて！

早いもので、今年も残すところあと僅かとなりました。現在評議会事務局では、第12回全国評議会に向けての準備を行っています。今年も例年通り来年2月に行われる全国評議会のご紹介をさせていただきます。

第12回全国評議会プログラム概要

日程：2007年2月10日（土）～12日（月）

場所：川崎グランドホテル

テーマ：『私たちの本来の目的～手にした一冊の本』

2月10日（土）

9：30 ～受付

12：30～第12回全国評議会開会・第1回全体会議

14：00～第2回全体会議

15：30～第3回全体会議

18：00～夕食懇親会

19：00～評議員会

2月11日（日）

9：00 ～分科会（企画、議事、広報・病設、出版、財務）

15：00～国際協力活動報告

15：30～地域報告

16：50～地域評議員選出に関するディスカッション

19：00～第4回全体会議

2月12日（月）

8：00 ～最終事務手続き

9：00 ～第5回から第7回全体会議

15：00 終了予定

主な議題

企画委員会 評議会憲章と常任理事会準則。AA日本35周年記念集会の開催等。

議事委員会 第13回全国評議会開催関連等。

広報・病設委員会 広報推進月間。07年度広報&病設フォーラム開催関連等。

出版委員会 絵で見る12のステップと12の伝統の出版。12のステップと12の伝統の文庫化等。

財務委員会 献金フォーラムの開催。J S Oの貸借対照表見直し等。

主な議題を委員会別に簡単に挙げてみましたが、この他にも各委員会それぞれにたくさんの議題があります。そうした議題について各地域の評議員がグループの皆さんの声を聞くための意見集約を行っていることと思います。

またプログラムの中で、地域報告の後に「地域評議員選出に関するディスカッション」の時間を設けました。こうした具体的なテーマを設けて地域報告の時間にディスカッションをするというのは全国評議会初の試みです。実際に各地域の評議員選出状況がどのような状況にあるのか？といったことや、今度どのようにしていったら良いかといったことが話し合われる予定です。

こうした第12回全国評議会のプログラムすべてに渡って、たくさんのボランティアの方々の協力をいただき、会議が進められ記録が採られていくことは毎年のことですが、やはりこの点もご報告しておきたいと思えます。

今回は、現在前期評議員の7名の皆さんに、来年の第12回全国評議会に向けて、それぞれの熱いを寄せていただきました。紙面の都合上、かなりご無理をお願いしたのですが、皆さんそれぞれにAA日本の今後について語っていただきました。それをご紹介したいと思えます。

■北海道地域 渡辺前期評議員

今回再び評議会参加の機会と支援を与えていただいたことに対し、北海道地域をはじめ普段様々な形でサポートして下さっている仲間の皆さんに感謝しています。とはいってもまた色々勉強しなきゃいかんのか、という思いでいるたんだ自分の軌道修正をまずしなきゃいけません。

前回の評議会ではAAの他の場面では味わったことのない、なにかAAのエッセンスが純粋に、しかも凝縮したパワーに圧倒されつつも、評議会というのは自分が考えていたのと全く違う楽しい場所だということがわかって感動しましたが、他にも気づいたことがあります。言うまでもないことですが、AAの主役・主体はグループであり、評議会はあくまで裏方・サポート役ということを実感しました。権威主義的な自分がいついっコントロール的発想を私はしたがりませんが、中央執行部の号令のようなものでAAは動くものではないことは常に確認すべき点だと考えます。よく言われる日本のAAの伸び悩み、空洞化（どこの地域も抱えるサービス人員不足など）について、実際の正体は何なのかということに私は非常に興味を持っていますし、全体で考え直すべき時期に来ているように思います。現状で今の全体サービス体系を維持せざるを得ず、その場しのぎの苦肉の策や楽観論に頼らざるを得ないのですが、このことがかえってサービス機構の硬直化、無関心・無責任の拡大へとつながっていくように思えてなりません。現にこの悪循環は起きているように思えます。

■東北地域 野呂前期評議員

評議員として立候補したときから、東北地域からの次の評議員選出も難しいだろうとの覚悟がありました。しかし、第11回評議会からの帰り道、やはりこの大きな感動と喜びを、次の評議員にも手渡していきたい！と強く願う私がおそこにはいたのです。秋となり、現実には厳しく胸が重苦しくなります。けれど今、この原稿を書く自分はずでに前向きな気持ちで第12回評議会に向かっているのも事実です。この現実の辛さを共に受け止めてくれる仲間達があります。そして今回評議会の中で他地域でも評議員選出に苦慮している現状について分かち合いがなされることに希望を持ち、賑やかに笑顔で、しか

し真剣にまた3日間を過ごしてこようと思います。余談：評議員になる数年前に2度程オブザーバー参加をして、とても楽しませてもらった経験がある。とにかくおもしろい！仲間と誘い合わせ、ぜひ評議会にオブザーバー参加をしてみませんか。いろんな楽しみ方がありますよ～。

■関東甲信越 石塚前期評議員

* 私たちはこの30年間援助職の人たちにどれだけメッセージを運んでいたでしょうか。

* 4600万円の予算は現在の日本のAAにとって適切でしょうか。メンバー一人頭1万円の負担が多すぎるのでしょうか、少なすぎるのでしょうか。

* 4500人に20人の評議員は適切な数でしょうか。225人に対し、ひとりの評議員を選ぶことは可能なことでしょうか。

* 評議員一人当たり6万円の分担金は適切でしょうか。三日間の評議会の運営経費200万円は適切でしょうか。第12回全国評議会で皆さんと分かち合っていきたいと思いません。

■関東甲信越地域 吉富前期評議員

「もし私に資格があるのなら立候補させてください。」一人の評議員も選出することなく終わろうとしていた7月の地域集会の最後に古い仲間が手を挙げてくれた時の言葉だ。正直涙が出そうになるくらい嬉しかった。評議会は日本のAA全体の方向を決定付ける場所。そこに20人の評議員が揃わないことは、常任理事会にグループの良心を示すチャンスを減らし、また逆に彼らが間違え権利を奪うことでもある。だけど実際ないんだ評議員をやろうという「変わり者」が。そりゃそうだろう、地域と地区を廻り「そんな雲の上のこと知らね～よ」と言われながら、AAにとって何が「最善」なのかをかき集める役なんて。でもね、自分もグループも地区も地域も日本のAAも成長の過程なんだよ。「ここまで」って線引いちゃったらそこでお終いだよ。今年も議題が決まり、その一つ一つに賛成か反対か決めなくちゃならない。自分の乏しい経験と狂った考えじゃ判断できないから、議題持って地区を廻ります。その時は助けてください。

■中部北陸地域 佐藤前期評議員

今年も10月の下旬に第12回AA全国評議会の暫定議題が届いた。第12回から評議会委員会の分科会の構成が変わり、私は今年議事委員会を担当しましたが、来年度は企画委員会を担当させて頂く予定です。新たな取り組みになります。また、今年の評議会で時間の都合上未審議となってしまった「AA日本評議会憲章、常任理事会準則」を本採択に向けて審議しなければならないことや、評議員定数の削減、JSOの赤字などの大きな問題があります。今年も、2泊3日の深夜に及ぶ会議で大変でしたが、各地域の評議員の皆さんと貴重な経験が出来たことは嬉しかったです。2007年度は評議員としては最後の評議会参加となります。地域から一人6万の予算を頂いているのですから、各グループ・地区・地域からの提案を丁寧に審議させて頂くと共に、大きな問題にも慎重にかつ敏速に判断して行きたいと思えます。

■中四国地域 松島前期評議員

日本のAAが大きなターニングポイントに来ている大事な時期に、2007年2月後期評議員として全国評議会に参加できることに感謝します。日本国内でAAに関するあらゆる地域格差がいわれている今。しっかり地域の現状の報告と意見を届けることにつとめるとともに、一人でも多くのまだ見ぬ仲間がAAと出会えるチャンスへの布石になればと思います。

■九州・沖縄地域 前田前期評議員

評議員に選ばれてあつという間に一年が来ようとしています。来年の評議会に向けての自分の役割ができてきているかといえば、あまりできていないような気がしますが、地域として来年の広報&病院施設フォーラムに立候補しています。11月の地域集会で大分に決まりましたのでぜひ承認してもらおうことでしよう。またいろいろな継続懸案がある中で評議会憲章と常任理事会準則をぜひ成立させなければと考えています。いろんな考えがあると思いますがまず実行することだと思えます。ここらで試行ははずし、また先で支障が考えられるとき、また改正するところは改正すれば良いと思うのでぜひ成立に向けて努力したいと思えます。

皆さん来年の第12回全国評議会には、後期評議員として出席されます。後半の1年間の任期をこのようにしてグループの皆さんからの付託に応じて活動されていくのでしょうか。また、今年12月に任期を終えられる後期評議員の方々も、残された任期を精一杯活動されている最中です。どうぞグループの皆さんの積極的な声を地域の評議員に託してください。

AA日本評議会事務局長・水谷

「広報&病院施設フォーラムin金沢」 を振り返って

去る10月7日に(土)石川県女性センターでAA常任理事会主催「広報&病院施設フォーラムin金沢」が開催されました。

今回、石川県での開催が決まった関係上、私も準備を進めていく実行委員の一員に加わらせていただきました。昨年(2005年)の12月の第1回の実行委員会を皮切りに、計6回の実行委員会を開催し、石川地区でも独自に実行委員会を立ち上げて準備を進めることができました。おかげさまで、フォーラム当日は60名様余りの医療・行政・ご家族の方々をはじめ100名様余りのAAメンバーの参加もありました。将来は更正保護施設などにもAAのメッセージを運べるよう努力したいと思っています。また、当日は4社のマスコミ関係者の方々に取材に来て頂きました。これも事前に幾つかのマスコミ各社にお願いしていた結果だと思っています。この中で2つの新聞社にこのAA常任理事会主催のフォーラムを開催することの趣旨を掲載していただきました。

私は、今回、このフォーラムを石川県内で実施して頂いたのを機会として、私自身がAAの中でのサービス活動を続けていくうえでの、色々な気づきをもらうことができましたし、貴重な体験ができたとおもいます。「サービス」は気づきがあっても、とにかく行動しなければ、なにも結果は出ないと思います。もちろん「AAの12の伝統」「AAの12の概念」に沿ったとしても、それだけではできないことが沢山ある。当然、関係者の方々に協力を頂くことは不可欠であると思えますし、直接「AAのサービス」ということに関わっていない仲間の協力も必要でした。

このフォーラムの広報のために、病院、行政、学校関係者、あるいはマスコミの関係者の皆様とお話をさせて頂いて感じたことなのですが、直接私たちが足を運んで、その関係者の方々や面と向かってお話をさせて頂かないと、私のお伝えしたいことがつたわらないし、逆に、関係者の方々が私たちAAに伝えたいことも伝わってこないことを改めて実感しました。通常、私は石川県内であっても、金沢市内や加

賀方面の病院、行政、施設、学校などが主な行動範囲で、能登半島にある、病院、行政、学校などに広報のために顔を出すことは、ほとんどありませんでした。しかし、今回はこのフォーラムの実行委員として、石川県全域の関係者の方々に仲間と一緒に広報させてもらいました。

また、今年は福井県に2度ばかり伺う機会がありましたので、この時にも仲間と一緒に福井県内の病院関係者の方々や行政関係者の方々に直接、このフォーラムを開催することをお伝えできました。限られた期間に、限られたメンバーだけでこのような広報をしていくことは限度もありました、しかし今後の広報活動をしていく上では良い経験になりました。

いつもAAは結果より経過が大事だと思っているのに、最初は結果ばかり気にしている自分がありました。「果たして、どれだけの関係者の方々が来てくれるのだろうか。最後まで、キチンとできるのだろうか。」というような思いがありましたが、やっていくうちに「やるだけやって、結果が出なかったらしょうがない。」という気持ちになりました。ただ、今回のフォーラムの実行委員を経験しての一番の気づきは「サービスの本質って、一体は何だろう。」というようなことかも知れませんが、答えはあるかも知れないし、無いかも知れません。答え云々ではなくて、サービスに携わっているものが考えながらサービスをしていくことかもしれない。「とにかくやること」で答えはないのでは、が私の答えとなった。それと、やはり「結果」は「経過」のあとについてくるものだと思った。私は今までAAのサービスはやれる者がやるものだと思っていた。また、過去に何をしたではなく、今何をやっているかだと思っていた。しかし、これだけではサービスを続けてやっていくことは難しいと思った。

直接、AAのサービス活動に携わってなくても、仲間の声を聞いて参考にし、その声もサービス活動に反映させていかないと続けてやることは難しい。1回限りとか、今回だけは特例といったものはやれると思うが、それでは続かないだろうと思う。100人の仲間がいれば100通りの「AAの12の伝統」や「AAの12の概念」の理解のしかたがあると思いますので、私たちが気づいた時点で修正していけば良いとおもいます。完璧を求めてはならないし、完璧に少しでも近づいていく努力をしていけばいいのだと思う。

明日、いかなる理由で飲むかもしれないアルコール依存症者が完璧を求めていたら、飲んでいた頃と同じ考えや生き方になると私は思う。サービスにしても一般社会での共通に生きていく色々なことを学び、社会に出ていくための練習の要素が含まれていると思います。

同じ目的を持つアルコール依存症者の中でうまくやれない者が、社会に出てもうまくやれるわけがないと私は思っています。

当然、私はAAの本来の目的である「各グループの本来の目的はただ一つ、飲酒をやめたいという願いだけである」というAAの12の伝統5番目に記されているように、グループは日々の努力を惜しんではならないと思っています。そのためには、1人でメッセージを運ぶことは難しいと思う。私はそのためにも色々な仲間の協力は当然不可欠だと思っています。

AAのグループは様々なメンバーによって支えられているのですから、サービスをしている仲間だけに勝手にサービスを任せていたら、そのグループの発展も成長もないし、後に続いてくれる人たちがいなくなると思うし、本来のメッセージは運べないと思う。

今回、このフォーラムを経験させてもらって、関係者の方

々のご協力を頂ければこそAAの活動ができていけることを実感いたしました。これは希望的なことになるかもしれませんが、このフォーラムが金沢で開催されたことを機会に、これまで以上に関係者の方々との交流を深めることができるようになりたいと思っています。

また、私は自分自身の経験から、何事も健全な心は健康な身体から宿ることを体験しました。健康でないと物事に前向きに取り組めないし、自分、または自分以外に問題が生じて自分以外のせいにしてしまうし、考え方が消極的になるし、その場の一時だけの感情だけで対処しようとするからである。

今回のこのフォーラムの実行委員を経験したことによって、関係者の方々や、実行委員と一緒にフォーラム開催に携わってきた中部北陸地域の多くの仲間に、色々な気づきももらい、学ばせてもらいました。

これからも、この気づきをAAグループの本来の目的の遂行のために、日々努力をしていきたいと思っています。

AA金沢グループ ポー

地域の分かち合い

～北海道地域～

地域のサービスに関わって

自分の飲酒時期は早く中学に入ってすぐ、人との関わりがうまくできなくて。

初めて飲んだ酒が人と関わるのに大変よいものだった。平気で会話もできるし輪の中にも簡単に入ることも出来た。人と関わる事が出来なくなったのは小学3年に母が亡くなってから。母はいつも自分の味方だった(兄貴たちのいじめ、暴力からも)。母が亡くなってからの自分は家庭でも学校でも何時も独りばっち、人の目や顔色を見ながら良い子が続けてきた。それでも酒は止まらなかった。高校に入学してもやめることは出来ず罪悪感だけが残った。

高校でも人付き合いは出来ず酒が唯一の友達、酒を飲んで学校に行くことも度々、そんな自分でも夢はあった。オートバイに乗りたくて、警視庁警察官採用試験も受けて合格はしたが兄貴たちに猛反対された、アル中に勤まるはずがないと。学校卒業後、酒を飲みながら、できる仕事は自分の家の船しか無いと。それも酒のせいで父親や兄貴たちに勤当同然に家を追い出され他の船に。そこでも酒が元で人間関係がうまく行かずすぐ他の船に。

そんな自分でも責任を任されたことも。でも、自分の頭をよぎるのは失敗したら人にどう思われるか、いつも逃げていた。他の人に譲る事で楽に、そして良い人をしてた。そんな自分だから、仕事をさせてもらい生活出来るとは思わなかった。自分が居るから商売ができるんだと、家庭をもっても同じ考え、食わしていると。だから飲むのは当然と。

AA、つながっても自分のおかしさに全く気付かず、人の話も聞けず比べてばかり。グループの役割も逃げていた。人間関係が旨く行かずセミナーに行っても、ラウンアップに行っても、何年も人の中に入れず孤独を感じてた。そんなとき地域集会の副議長の話が自分にあったが断り続けた。ソーバーは長いのに失敗したら皆にどう思われるかといつも逃げていた。自分に評議員の経験がある仲間が、サービスに関わると色々な面で変われるというアドバイスもあった。ビジネスの司会をイメージすればと。それが6~7年前地域集会副議長

を経験、翌年は議長の実験も。2年の間色々な経験も。自分で出来ないことは出来る人に頼れば自分を楽にしてくれる事も。今は人と会っても逃げる事もなくなり、メッセージもグループの役割も気楽に出来ています。

地域のサービスに関わるチャンスを与えてくれた仲間へ感謝。

楓

第7回全国サービス・フォーラム開催のご案内

日時： 2007年9月15日(土)～17日(月・祭日)

場所： 国立女性教育会館(埼玉県・嵐山)

テーマ 「あなたも出来ます、皿洗い」

サブテーマ 「回復のお手伝い」

主催・AA日本常任理事会

大型版ビッグブックの頒布を開始しました

『アルコールクス・アノニマス』(B5版、282ページ)
頒布価格4,000円(税込み)

今年の評議会で出版することが決められたビッグブックの大型版ができました(1,890円のポケット版をそのまま拡大したものです)。小さな活字が読みにくくなっている方にやさしいビッグブックです。ご活用ください。

DVD『HOPE 希望』の頒布を開始しました

アメリカ/カナダ評議会承認視聴覚資料日本語字幕版
価格3,675円(税込み)

あるアルコールクの若者の、AAに参加してからの1年間の物語。AAのフェロウシップとプログラムによってこの若者の生き方がどのように変えられたかが、わかりやすく映像化されています。ビギナー向けの、そして関係者向けの強力なメッセージ・広報資料です。グループ、地区、地域、COなどの集いや施設へのメッセージで活用しましょう。

【あらずじ】最後の酒から1年がたった。若者は、酒を飲んでいて日々、そして飲まずに過ごしたこの1年間を振り返る。彼と数人のAAメンバーが、AAについて、AAが行わないことについて、AAの第一の目的、スポンサーシップ、ホームグループ、12のステップと12の伝統、アルコールリズムから回復するAAの基本的な原理について語る。

日本ニューズレター3代目タイトルは77号から120号まで約7年以上の間、皆さまに親しまれてきました。手作りの時代からパソコン技術の時代に移り様々なニュースをお届けしてきました。少しタイトルをチェンジしての4代目、ますますのご愛読をお願いする次第です。常任理事会広報委員会

JSO業務の棚卸し

常任理事会の中で提案されたJSO業務の棚卸しを今年8月から9月にかけてスタッフ、担当理事と一緒に進めました。

それぞれのスタッフが現在行っている業務について、1. 現状、2. 反省点・問題点、3. 改善策(案)・アイデアの三つの欄に書き込み、ミーティングを行いました。10月の常任理事会に提出しましたが、かなりの量になったことで、スタッフがそれぞれにまとめて日本ニューズレターに掲載して行くことが了承されました。今回は私(野崎)の業務内容と棚卸しについて皆さまにご報告いたします。JSOの業務内容は毎年評議会報告書に掲載しています。

基本的な日常の業務として、情報伝達(国際関連を含む)、情報管理(代議員、評議会関連など)、出版関連(書籍・パンフレットなど)、BOX関連(編集には関わりません)、献金処理を含む一般会計業務があります。私は所長ということですのですべての業務に関して最終的な責任を持つこととなりますが、それぞれの担当を担っているスタッフに、ほとんどの権限を持って対応してもらっています。業務の棚卸しの中で、何が最優先であるか常に求められているが対応できていないこと、サービスが多岐にわたり体力的、時間的に無理が生じていることなどが見えました。サービスの範囲は限りなく広がっていますが、自分たちのサイズを再検討する必要があると思います。私自身はJSOの所長(スタッフ)、常任理事会の構成メンバー、常任理事会委員会のスタッフという、その時々で異なる役割を持った業務を行なっています。所長という仕事について自分自身を考えて見ると、何も分からない未経験の仕事で1998年9月から始め、現在まで多くの人に支えられてなんとか勤めてきました。AAのサービスに適切なことができていたか自分ではわかりませんが、新しい技術への対応、これまでに蓄積された沢山のメンバー・グループの経験を活用すること、AAメンバーとのコミュニケーション、AA以外の人たちとのコミュニケーションをとることなど、一つとして満足できるものはないことは認めています。そして、今回一人のAAメンバーとして、自分自身が徹底したAAのプログラムに沿った生き方をしているかを考えることができました。やはり自己中心的な考え方が、ここかしこに出ていたこと、人を変えることはできないと理屈では分かっているつもりが、どうしても待つことができないこと、一つ一つの原理についての勉強不足がはっきりと分かりました。改善点の欄に出てくることすべてが、自分自身の生き方の問題で、これからの課題だと痛感いたしました。AAの目的のために、自分ができることを心をこめて誠実に進んで行こうと考えています。

JSO所長・野崎

「訂正：10月20日付ニューズレターNo. 120の記事に翻訳の誤りがありましたので、以下のとおり訂正し、お詫びいたします。

2ページ右欄の16行目から18行目の文「あなたのグループでこの資料を使うことが12の伝統に書かれている言葉やそこに示されている精神(スピリット)に反しているものかどうかは分かりません。」⇒「あなたのグループでこの資料を使うことが12の伝統に書かれている言葉やそこに示されている精神(スピリット)に反しているとは思いません。」

編集・発行 NPO法人 AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)

〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F TEL: 03-3590-5377 FAX: 03-3590-5419

http://www.aajapan.org aa-jso@cam.hi-ho.ne.jp (月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休